

非鉄金属概況

日本鉱業協会 企画調査部

金

【海外】

1. 価格推移

6 月相場	高値	安値
ロンドン相場(\$/toz)	: 1,324.60 (27 日)	1,211.00 (3 日)
国内建値(円/g)	: 4,445 (16 日)	4,271 (3 日)
為替相場(円/\$、TTS)	: 101.76 (27 日)	111.63 (1 日)

6 月の海外金相場は 1 日に\$1,216.25/toz(トロイオンス)と反発してスタートしたが、同日発表の米国の製造業景況感指数の改善で利上げ観測が一段と強まったことで、3 日の前場には\$1,210 際まで下げた。ところが、3 日発表の 5 月の米雇用統計で雇用者数が伸び悩んだことを受けて、ドルが主要通貨に対して大きく下落、代替投資先とされる金を買われ、3 日の午後に急反発すると、週明けの 6 日には\$1,244.00 まで上伸した。米国の 5 月の雇用統計は非農業部門の雇用者数が前月比 3 万 8 千人増に留まり、増加基調に急ブレーキがかかった。

7 日以降もこの基調は継続し、10 日には\$1,275.50 と約 3 週間ぶりの高値をつけた。米連邦準備理事会(FRB)が 14 日から始まる米連邦公開市場委員会(FOMC)で追加利上げを見送るとの観測が金への資金流入を促した。現物の金を証券化した上場投資信託(ETF)への資金流入が続いていたことも追い風となった。さらに週明けの 13 日以降は、英国の欧州連合(EU)離脱を巡る懸念から多くの投機資金が金市場へ流入したことで、さらに上値を目指す展開となった。16 日には金価格が一段と上昇、\$1,310.75 と 2014 年 8 月以来 1 年 10 か月ぶりの高値をつけた。15 日に FRB が利上げを見送ったほか、16 日の日銀の追加緩和見送りもあって、ドルが主要通貨に対して下落、ドル代替資産とされる金を買う動きが一段と強まった。

24 日には、このような上昇基調に加え、予想に反し英国の EU 離脱の方針が国民投票で決まったことで、金融市場の混乱を懸念した「リスクオフ」の資金が金市場へ流入し、さらに一段高となった。同日の後場には\$1,315.50 まで急上昇し、16 日と同じく 2014 年 8 月以来の高値となった。週明けの 27 日にはさらに上昇基調が加速し、前場に\$1,324.60 をつけ、2014 年 7 月以来の高値となった。とくに、英国の EU 離脱決定で投資家のリスク回避姿勢が強まり、短期的な投機資金が株式相場を避け ETF へ流入し続けたことも金価格を支えることになった。その後ユーロなどに対するドル

高から下げるも、30日にはドル高の一服感からやや上げて、\$1,320水準で翌月入りした。

2. 為替相場推移

6月の為替相場は1日に\$1=111.63円(TTS相場、以下同じ)でスタートした。英国の欧州連合(EU)離脱問題への警戒感から「低リスク通貨」とされる円を買って、ドルを売る動きが優勢だった。1日の安倍晋三首相の記者会見で金融政策に関する具体的な言及がなされず、大規模な財政出動への期待が後退したことで、2日には約2週間ぶりの高値をつけた。

さらに、3日発表の5月米雇用統計では非農業部門の雇用者数が前月比3万8千人増と、予想を(15万5千人増)を大きく下回ったため、ドル安が進み、週明けの6日には\$1=107.55円と約1か月ぶりの高値をつけた。上旬後半にかけても、6日に米連邦準備理事会(FRB)のイエレン議長が、3日発表の米雇用統計の結果を受けて早期の米利上げ路線を微修正する発言を行ったことで、\$1=107円水準での高値圏での推移となった。この間、円高局面が原油相場や米株高により修正される場面も散見されたが、それでも基調は円高であった。

その後中旬入り後も、英国のEU離脱に対する懸念がくすぶり、投資家のリスク回避姿勢から低金利で調達通貨とされる円が買われた。さらには、15日のFRB利上げ見送り、16日の日銀追加緩和見送りなどから一段と円高圧力が強まり、週末の17日には\$1=105.73円と2014年9月以来1年9か月ぶりの円高・ドル安水準をつけた。その後、23日までは、英国の欧州連合(EU)離脱を問う国民投票を前に市場が様子見状態となり、一進一退の値動きが続いたが、24日には、予想に反し、英国がEUを離脱することが決まったことで、円が急騰し、\$1=101.76円と2013年11月以来2年7か月ぶりの円高・ドル安水準となった。銀行間取引では\$1=99円まで円が上昇し、\$1=100円を突破する場面が見られた。

27日には、24日に大幅に下げた日経平均株価が上昇し、また日銀の追加緩和を巡る思惑から\$1=103円水準へ反落、その後30日にかけても、海外投機筋の積極的な円買いが鈍ったことから同水準での小幅な値動きが続いた。30日には投資家のリスク回避姿勢の弱まりから\$1=103.91円をつけて越月した。

対ユーロでも円は大幅に上昇した。上旬は€1=123円水準前後の小動きだったが、中旬以降は英国のEU離脱に対する懸念から円が続伸、17日に€1=120円を突破すると、英国のEU離脱が決まった24日は€1=112.98円まで円高が進み、2012年12月以来3年半ぶりの円高・ユーロ安となった。月末にかけてはややユーロが戻し、€1=115.89円をつけて越月した。

【国内】

1. 建値推移

6月の国内金山元建値は1日に4,363円/g(グラム)と前月末よりやや上げてスタートした。ところが、急激な円高からすぐに下げ、3日には月間最安値となる4,271円をつけ、本年1月以来の安値となった。その後も円高基調は続いていたものの、海外相場が堅調さを保っていたことで、大きく落ち込むこともなく、概ね4,300~4,400円での展開となった。24日には英国の国民投票で欧州連合(EU)離脱派が勝利したことで、海外相場が急騰、同時に急激な円高も進行したが、その円急騰分を海外相場が吸収したことで、4,200円を下回ることなく、概ね4,300円台での推移となった。30日には4,377円をつけ、月初とほぼ同水準で越月した。

2. 金地金生産・出荷・生産者在庫(2016年5月分=平成28年5月分)

生産	:	9,806 kg	(前月比 17.9%増、前年比 2.6%減)
出荷	:	9,680 kg	(前月比 9.1%減、前年比 0.9%増)
在庫	:	5,011 kg	(前月比 2.6%増、前年比 7.9%増)

(生産、出荷、在庫の出典は経産省生産動態統計調査)

5月の生産は直島製錬所の定修明けから前月比プラス。しかし、前年同月比は2か月連続のマイナス。出荷は連休の影響と前月の反動から大幅減だが、前年同月比は2か月連続の増。在庫は出荷減から5t台へ増加。前年同月比も5か月連続の増。

銅

【海外】

2016年6月のLME銅相場は月初の\$4,600/t台から中旬にかけて\$4,500台に軟化した。下旬には自律反転し、月末には1か月ぶりとなる\$4,800台に乗せた。英国のEU離脱(ブレグジット)決定にベースメタル相場は瞬間的に急落したが、その後は急回復した。

前半は米国の利上げ観測が高まるなか、銅相場は軟調に推移した。5月の非農業部門の雇用者数は2010年9月以来の小幅な伸びにとどまったが、失業率は4.7%と2007年以来の低水準となり、新規失業保険申請件数も6月第1週末まで66週間連続で300千人を割り込み、1973年以来の長さとなった。イエレン米連邦準備制度理事会(FRB)議長は5月の雇用統計に懸念を示す一方で、米国景気の先行きには明るい見通しを示し、米連邦公開市場委員会(FOMC)は15日、金利の据え置きを決定したが、年2回の利上げを実施する姿勢は堅持した。

その後の銅相場は英国のブレグジット世論調査で EU 残留派、離脱派が拮抗するなか\$4,500 圏を神経質に推移した。

銅独自の要因としては、LME 在庫が 6 月 2 日の 153,525t から 8 日までに 213,225t とこの 1 週間で 59,700t 急増した。投機筋が直先スプレッドをコンタンゴにすると同時にローカル・プレミアムを引き上げるため、シンガポール、高雄、光陽、釜山などのアジア倉庫に在庫を持ち込んだためである。それまでは中国筋のスクウィーズにより減少傾向を辿っていた在庫が急増したため、直先スプレッドはコンタンゴに転じた。

23 日に行われた英国の EU 離脱の賛否を問う国民投票の結果は 24 日早朝に判明し、予想に反して EU 離脱派が過半数を制した。これを受け、ポンド、株価、原油などのコモディティ価格が急落する一方、ドルと金は急伸した。しかし、ベースメタルは相対的に小幅な下落にとどまった。銅の 1 か月先物は取引開始時の \$4,766 から離脱派が過半数を占めた 5 時 20 分にかけて \$4,613 まで急落したが、公式相場は前日比 \$81.5 安の \$4,670.5 であった。

週明けの 27 日以降は、ブレグジット投票の恐怖が緩和したため、銅相場はショートカバー買いにより 30 日にかけては \$4,827 まで反発した。

供給障害要因のうち、インペリアルメタルズは 6 月 23 日、カナダ・エネルギー鉱山省と環境省からマウントポリー銅金鉱山(加)の通常操業再開の許可を取得した。同鉱山は 2014 年 8 月、テイリングダムの決壊により操業を停止したが、昨年 8 月、オープンピット採掘跡地へのテイリングの堆積が許可され、50% 操業が再開された。今回、第三者委員会の勧告に従って修復されたテイリングダムの使用が許可され、全面操業が可能になった。

需給状況については、国際銅研究会によれば、2016 年 1~3 月の世界の銅鉱石生産は前年同期比 4.7% 増 4,788 千 t、地金生産は 5.2% 増の 5,807 千 t、消費は 7.2% 増の 5,765 千 t、この結果、地金需給バランスは前年同期の +143 千 t が +42 千 t へとほぼバランス推移している。報告在庫は前年比 5.3% 増の 1,649 千 t、在庫/消費比率は 3.4 週間で横ばい。

鉱石生産の内訳は精鉱が 5.5%、SXEW は 1% 増加した。国別には過去 2 年間に新規稼働と能力増強のあったペルーが 51% 増加したほか、インドネシアと米国の生産が回復し、モンゴルの生産が立ち上がった。一方、チリは 3% 減少し、コンゴ民主共和国は減産により 13% 減少した。地域別にはアメリカが 7.5%、アジアは 5% 増加したが、ヨーロッパは横ばい、アフリカは 4%、オセアニアは 1.5% 減少した。鉱山稼働率は 83.2% でほぼ横ばい。

地金生産の内訳は一次生産が 5%、二次生産は 5.5% 増加した。国別には中国が 10%、米国は 23%、チリは 5%、日本は 6% 増加した。コンゴ民主共和国とザンビアは減産のため減少した。地域別にはアメリカが 9%、アジアは 8%、オセアニアは 14% 増加、アフリカは 16%、ヨーロッパは 3% 減少した。精製工場の稼働率は 82.3%

から 85.2%に上昇した。

消費は中国の見掛け消費が 17%増加した。ネット輸入が 40%増加したことによるもの。中国を除く世界の消費は 1.5%減少した。地域別にはヨーロッパが 4%、アジアは 11%増加(中国を除くアジアは 4%減少)、アフリカは 17%、アメリカは 3.5%減少、とオセアニアは横ばいであった。

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

5/27	560	6/6	540	6/9	530	6/17	520	6/22	530	7/1	540
------	-----	-----	-----	-----	-----	------	-----	------	-----	-----	-----

2. 生産・出荷・在庫

平成 28 年 5 月の銅地金生産は前月比 2.2%増、前年同月比 2.2%減の 131.3 千tと 4 か月ぶりの前年比減となった。出荷は前月比 3.2%減、前年比 2.3%増の 122.1 千tでそれぞれ 3 か月連続の減少、3 か月ぶりの増加となった。内訳は内販が前月比 14.1%減、前年比 7.3%減の 71.9 千tと前年 9 月以来の低水準で、13 か月連続の前年割れとなった。輸出は前月比 18.1%増、前年比 20.1%増の 50.2 千tで、それぞれ 3 か月ぶりとは 2 か月連続の増加。内販のうち電線向けは前年比 9.2%減の 44.4 千tと 12 か月連続の減少、伸銅品向けは 3.5%減の 23.9 千t。在庫は前月比 10.0%増、前年比 4.7%減の 109.2 千tでそれぞれ 2 か月連続の増加、8 か月連続の減少となった。

3. 需要部門別動向

日本電線工業会によれば、平成 28 年 5 月の銅電線出荷は前月比 13.3%減、前年同月比 6.5%減の 48.6 千t(推定)と平成 21 年 5 月来の低水準で 6 か月連続の前年比減。うち内需は前年比 5.2%減の 47.3 千tで 11 か月連続の減少、輸出は 36.7%減の 1.3 千tで 6 か月連続の減少。内需の部門別には、その他内需が 3 か月連続、自動車は 2 か月ぶりの増加となったが、電気機械は 19 か月、通信は 4 か月、建設電販は 3 か月、電力は 2 か月連続の減少となった。

日本伸銅協会によれば、平成 28 年 5 月の伸銅品生産は前月比 6.1%減、前年同月比 1.5%増の 62.3 千t(速報)と前年比は 15 か月ぶりの増加となった。うち内需向けは前年比 3.1%増の 51.8 千tと 3 か月ぶりの増加、輸出は 5.6%減の 10.5 千tで 14 か月連続の減少。品種別には、エアコン向けの銅管が 2 か月連続で増加、半導体、コネクタ、自動車向けの銅条は在庫調整の一巡で 13 か月ぶりに増加したが、自動車端子向けの黄銅条は再び減少、コネクタ向けの青銅板条は一部メーカーの生産停止(8 月末)も相まって 13 か月連続かつ大幅な減少となった。

【海外】

2016年6月のLME鉛相場は総じて\$1,700/tを中心とする狭いレンジをもみ合い推移し、英国のEU離脱(ブレグジット)決定には瞬間的に急落したが、月末にかけて急反発した。

前半は米国の利上げ観測が高まるなか、鉛相場はやや弱含みに推移した。5月の非農業部門の雇用者数は2010年9月以来の小幅な伸びにとどまったが、失業率は4.7%と2007年以来の低水準となり、新規失業保険申請件数も6月第1週末まで66週間連続で300千人を割り込み、1973年以来の長さとなった。イエレン米連邦準備制度理事会(FRB)議長は5月の雇用統計に懸念を示す一方で、米国景気の先行きには明るい見通しを示し、米連邦公開市場委員会(FOMC)は15日、金利の据え置きを決定したが、年2回の利上げを実施する姿勢は堅持した。

その後の鉛相場は英国のブレグジット世論調査でEU残留派、離脱派が拮抗するなかを神経質に推移した。

23日に行われた英国のEU離脱の賛否を問う国民投票の結果は24日早朝に判明し、予想に反してEU離脱派が過半数を制した。これを受け、ポンド、株価、原油などのコモディティ価格が急落する一方、ドルと金は急伸した。しかし、ベースメタルは相対的に小幅な下落にとどまり、鉛のセツルメントは前日比\$26.5安の\$1,693.55であった。

週明けの27日以降は、ブレグジット投票の恐怖が緩和したため、鉛相場はショートカバー買いにより30日にかけて\$1,780.0に急伸した。

需給状況については、国際鉛亜鉛研究会によれば、2016年1~4月の世界の鉛鉱石生産は前年同期比5.0%減の1,454千t、地金生産は1.8%減の3,393千t、消費は2.5%減の3,370千t、地金需給バランスは前年同期の▲2千tから+23千tへとほぼバランス推移した。

鉱石生産はヨーロッパが2.7%増加したが、アメリカは横ばい、アジアは2.7%、オセアニアは27.8%、アフリカは7.4%減少した。国別にはオーストラリア、中国、インド、米国が減少した。地金生産はアメリカが2.3%、オセアニアは10.3%増加、ヨーロッパ、アフリカは横ばい、アジアは4.3%減少した。国別には中国の増加がカナダ、韓国の減少を相殺した。消費はヨーロッパが8.8%増加、アメリカ、オセアニアは横ばい、アジアは6.6%、アフリカは2.8%減少した。国別には中国以外がヨーロッパを牽引役に4.2%増加したが、中国は12.1%減少した。4月末の地金の報告在庫は前年同月比6.9%減の474千t、在庫/消費比率は3.0週間から2.4週間へとやや低下。

中国は鉱石生産が3.7%減の659千t、鉛精鉱輸入は18.9%減の231千t、地金生産は10.9%減の1,254千t、地金のネット輸出は15千tから10千tに減少、この結果、

見掛け消費(生産+輸入-輸出±上海取引所在庫)は 12.1%減の 1,238 千tとなった。

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

5/10 244 5/24 238 6/1 245 6/14 239 6/27 232 7/1 240

6月 は下旬に LME 鉛相場が上昇するも、円高の進行により鉛建値の上げ幅は抑制された。

2. 鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2016年5月分=平成28年5月分)

生産 : 17,372t (前月比 1.1%減、前年比 3.8%増)

出荷 : 13,857t (前月比 16.7%減、前年比 8.1%増)

在庫 : 25,279t (前月比 15.7%増、前年比 5.5%減)

(生産の出典は経産省生産動態統計調査、出荷・在庫は日本鉱業協会受払)

5月の生産は前月比微減だが、前年同月比は5か月連続の増。出荷は連休と前月の反動から前月比大幅減だが、前年同月比は3か月連続の増。5月連休での蓄電池向け販売の落ち込みが予想ほどではなかったことが、前年同月比増につながった。在庫は2か月連続の前月比増だが、前年同月比は8か月連続の減と減少基調。

3. 需要部門動向

5月の自動車生産台数は前年同月比1.7%増の656,814台となり、2か月ぶりに前年同月を上回った。

乗用車は前年同月比2か月ぶりのプラス、トラックは同13か月連続のマイナス、バスも同6か月連続のマイナスとなった。

5月の自動車輸出台数は前年同月比4.6%増の302,682台となり、2か月ぶりに前年同月を上回った。

一方、5月の二輪車生産台数は前年同月比3.4%減の30,482台と4か月ぶりに前年同月を下回った。

(一社)電池工業会の調査によると、4月の自動車用鉛蓄電池のメーカー販売個数は、新車用、補修用、輸出用を併せた総合計で1,650千個(前年同月比1%減)と再び低下、自動車用以外の鉛蓄電池は576千個(同6%減)と8か月連続で減少した。その結果、鉛蓄電池の出荷はトータルで2,226千個(同2%減)と低下した。

鉛関連製品生産統計

		4 月	5 月(速報値)
自動車	数量(台)	643,901	656,814
	前年同月比(%)	90.3	101.7
		3 月	4 月
自動車用鉛蓄電池	数量(鉛量t)	16,225	14,526
	前年同月比(%)	97.7	95.0

(出所:(一社)日本自動車工業会, 経済産業省生産動態統計調査)

亜鉛

【海外】

2016 年 6 月の LME 亜鉛相場は総じて\$2,000/t を中心とする狭いレンジをもみ合い推移し、英国の EU 離脱(ブレグジット)決定には瞬間的に急落したが、月末には前年 7 月以来の\$2,100 台に乗せた。

前半は米国の利上げ観測が高まるなか、亜鉛相場は頭重く推移した。5 月の非農業部門の雇用者数は 2010 年 9 月以来の小幅な伸びにとどまったが、失業率は 4.7%と 2007 年以来の低水準となり、新規失業保険申請件数も 6 月第 1 週末まで 66 週間連続で 300 千人を割り込み、1973 年以来の長さとなった。イエレン米連邦準備制度理事会(FRB)議長は 5 月の雇用統計に懸念を示す一方で、米国景気の先行きには明るい見通しを示し、米連邦公開市場委員会(FOMC)は 15 日、金利の据え置きを決定したが、年 2 回の利上げを実施する姿勢は堅持した。

その後の亜鉛相場は英国のブレグジット世論調査で EU 残留派、離脱派が拮抗するなかを弱含みに推移した。

23 日に行われた英国の EU 離脱の賛否を問う国民投票の結果は 24 日早朝に判明し、予想に反して EU 離脱派が過半数を制した。これを受け、ポンド、株価、原油などのコモディティ価格が急落する一方、ドルと金は急伸した。しかし、ベースメタルは相対的に小幅な下落にとどまり、亜鉛のセツルメントは前日比\$36 安の\$1,998 であった。

週明けの 27 日以降は、ブレグジット投票の恐怖が緩和したため、亜鉛相場はショートカバー買いにより 30 日にかけて\$2,102 に急伸した。

供給障害要因としては、コリアジnkの蔚山亜鉛製錬所(韓国)で 6 月 28 日、廃液の漏出事故の発生があった。事故は廃液パイプの解体工事が行われていた定修工

事中に発生し、下請け労働者6名が負傷した。塩酸、硝酸、フッ化水素酸を含有する廃液1tが電解タンクから漏出したが、製錬所周辺の環境被害はないとされる。

需給状況については、国際鉛亜鉛研究会によれば、2016年1～4月の世界の亜鉛鉱石生産は前年同期比8.1%減の4,070千t、地金生産は3.4%減の4,399千t、消費は4,375千tで横ばい、地金需給バランスは前年同期の+185千tから+24千tへと供給過剰幅が縮小した。

鉱石生産はアフリカが4.0%増加したが、アジアは2.6%、アメリカは3.5%、ヨーロッパは3.1%、オセアニアは46.8%減少した。国別にはオーストラリア、インド、アイルランド、ペルー、米国が減少した。地金生産はアフリカが33.3%増加したが、オセアニアは横ばい、アジアは4.1%、ヨーロッパは2.2%、アメリカは4.4%減少した。国別には韓国、ナミビアの増加がインド、日本、米国の減少に相殺された。消費はアジアが2.4%、ヨーロッパは4.2%、オセアニアは20.0%増加したが、アメリカは16.8%、アフリカは11.5%減少した。国別には中国、ヨーロッパの増加が日本、台湾、米国の減少に相殺された。4月末の地金の報告在庫は前年同月比3.4%増の1,497千t、在庫/消費比率は5.6週間から5.8週間はやや上昇した。

中国は鉱石生産が3.5%増の1,664千t、亜鉛精鉱輸入は20.0%減の327千t、地金生産は1,951千tで横ばい、地金のネット輸入は163.0%増の213千t、この結果、見掛け消費(生産+輸入-輸出±上海取引所在庫/国家備蓄)は6.4%増の2,097千tとなった。

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

5/9	253	5/17	256	5/26	250	6/1	262	6/7	268	6/10	274
6/15	265	6/20	256	7/1	268						

鉛同様、6月は下旬にLME亜鉛相場が上昇するも、円高の進行により亜鉛建値は小幅な値動きに留まった。

2. 亜鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2016年5月分=平成28年5月分)

生産	: 47,175t	(前月比 2.0%増、前年比 5.1%減)
出荷	: 39,343t	(前月比 10.6%減、前年比 2.0%減)
在庫	: 86,480t	(前月比 10.0%増、前年比 2.1%減)

(生産の出典は経産省生産動態統計調査、出荷・在庫は日本鉱業協会受払)

5月の生産は2か月連続の前月比増となるも、前年同月比は前年の播磨事業所の生産停止から10か月連続の減。出荷は連休の影響をうけて内販、輸出とも前月比、前年同月比ともに減り、全体では前年同月比で7か月連続の減。在庫は出荷減から2か月連続の前月比増だが、前年同月比は2か月連続の減。

3. 需要部門動向

5月の鉱工業生産指数は前月比2.3%減、前年同月比0.1%減の95.0(季節調整済、2010年=100基準、速報値、以下同じ)となった。前月比は3か月ぶりのマイナス、前年同月比は2か月連続のマイナス。4月に好調だった化粧品やはん用・生産用・業務用機械などで生産が減少した。経産省は基調判断を「一進一退で推移している」に据え置いた。

業種別では15業種のうち11業種が低下した。化粧品などの化学工業は前月比7.5%低下した。はん用・生産用・業務用機械は納期の後ずれなどにより同2.2%低下。電子部品・デバイスやエアコンなどの電気機械も前月を下回った。一方、自動車などの輸送機械は同0.7%上昇した。

5月の出荷指数は前月比2.3%減の93.8と、生産指数同様3か月ぶりのマイナス、前年同月比も0.8%減と6か月連続のマイナスとなった。

一方、在庫指数は前月比0.3%増の113.7と2か月ぶりに上昇した。在庫率指数も同じく、前月比1.3%増の117.2と2か月ぶりに上昇した。

大企業の生産見通しを示す製造工業生産予測指数では、6月が前月比1.7%の上昇、7月は同1.3%の上昇を見込んでいる。

4月の亜鉛めっき鋼板生産(次工程用消費を除く)は前年同月比22か月連続の減と依然低迷。数量も19か月連続の100万t台割れ。しかも80万t台を割り込み近年では最低水準。

4月の伸銅品生産量は66,349t(確報値、対前年同月比▲1.5%) (対前月比+3.3%)と14か月連続減少ではあるが、本年2月以降は3か月連続して減少幅が縮小している(3月▲1.7%、4月▲1.5%)。主要品種のうち、銅管は再び対前年比増となった。3月に続き1万tに迫る勢い。黄銅棒は6か月振りに対前年比減(▲1.7%)となった。一方、板条製品では、銅条(▲4.1%)と青銅板条(▲17.8%)は12か月連続の減少と調整が続いているが、黄銅条は8,499tと対前年比で2か月振りに増加に転じた。前年4月が8千t割れと低調だったこともあり、増加幅は拡大した(+7.7%)、(前年同月比、内需+9.7%、輸出▲9.3%)。

亜鉛関連製品生産統計

		3月	4月
亜鉛めっき鋼板	数量(t)	901,703	785,457
	前年同月比(%)	90.8	96.7
黄銅製品	数量(t)	29,935	28,094
	前年同月比(%)	104.1	101.1
亜鉛ダイカスト	数量(t)	1,669	1,517
	前年同月比(%)	90.1	80.5
亜鉛華	数量(t)	5,370	3,842
	前年同月比(%)	97.9	83.3

(出所:経済産業省生産動態統計調査)